

情報かわらばん『低被爆デジタルX線撮影装置』の記事

低被ばくのデジタルX線
撮影装置、時短と安全性を
促進する滅菌機器を導入

函館中央病院

函館中央病院（函館市）はX線
撮影した画像を瞬時に表示できる
デジタルX線撮影装置を導入し



FPDを手にするスタッフ（中央が
斉藤副技師長）

た。

「X線写真撮影はアナログからデジタルへと大きな変化を遂げている。当院ではX線情報を高速処理し即座に画像表示を可能とするデジタルシステムを導入した。X線を効率良く情報化することができ、少ないX線量でもきめ細かな診断画像を作成することが可能となり、患者さんの被ばくの低減にもつながっている」と診療放射線技術科の斉藤猛美副技師長。

同システムは撮影時に画像を読み込むためにFPD（フラット・パネル・ディテクター）と呼ばれるパネルを活用する。従来の半分のX線量でデータを検出できるため、被ばく線量は半分で済み、患者さんのメリットも大幅に向上。また、パネル内に次世代バッテリーとして注目されるリチウムイオ



藤田信行臨床顧問

ンキヤパシタを内蔵し、省電力化も実現。さらに病棟または手術室などでのポータブル撮影にも対応でき、院内どこからでも画像転送できるようにワイヤレスネットワークを構築した。同病院では十四枚のFPDを導入し、来院されるすべての患者さんに対応できるように、業務の効率化と安全性の向上を目指している。「今後も被ばく量の低減に向け病院全体で取り組んでいきたい」と放射線科の藤田信行臨床顧問は話している。